泉
いずみ

ー目次ー

表紙「あじさい」
「コラム百折不撓」住職
連載「ハヤブサ物語18」
イムジン河その後
オリンピックはできるの？
連載「私の出会った神様たち①」
私の未来
北欧文化を思う
形見の財布
さとりの知恵を読む27「さとりのうた」
掲示板・お知らせなど

娘より　届く紫陽花　はずみおり　　博子

発行責任者：安泉寺　住職　野呂大悟　　住所：〒496-0945愛西市三和町中ノ割173-1 電話：0567-28-0001

コラム「百折不撓」

野呂大悟

早い梅雨入りで、毎日ジトジトした日が続いています。連休が終わり、季節が良い時期になったなぁと感じつつ、すぐに長雨。今年の夏は暑そうですね。

先月のゴールデンウィーク中に、我が安泉寺のホームページも少しだけリニューアルしてみました。最初のページの写真を動画っぽく音楽を挿入して作り直し、素人にしては良い感じにできたので、SNSに投稿したら、すぐに、近所の檀家さんから電話を頂きました。

「ドローンで安泉寺を撮影したるで、ちょっとこやぁ（来なさい）」ということで、すぐに向かうと、本格的なドローンが空高く飛んでいました。手元では、コントローラーにスマホを付けながら、映像を確認しています。物凄く綺麗な映像に、感動しました。

実は、SNSに投稿したイメージ動画をすぐに見て、ドローンで撮影したらもっと良い感じなると思って連絡をしてくださったようで、さっそく安泉寺をドローンで撮影してくださいました。それをすぐに編集して、今は最新のイメージ動画がホームページにあがっています。是非みなさんお時間があれば、「安泉寺　愛西市」とかで検索すると出てくるのでご確認ください。

安泉寺ホームページ

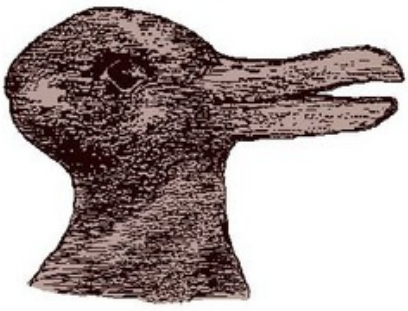
ドローンで撮影した三和町大成地区

立田地区は高い建物がなく、上から見ることなんてないので、初めての風景に感動しました。木曽川の圧倒されるほどの存在感と雄大さ、規則正しく並ぶ蓮田やハウス。改めて良い環境で生活していると感じることができます。

見方が変われば湧き上がってくる感情も変わるとよく言いますが、本当にそうですね。

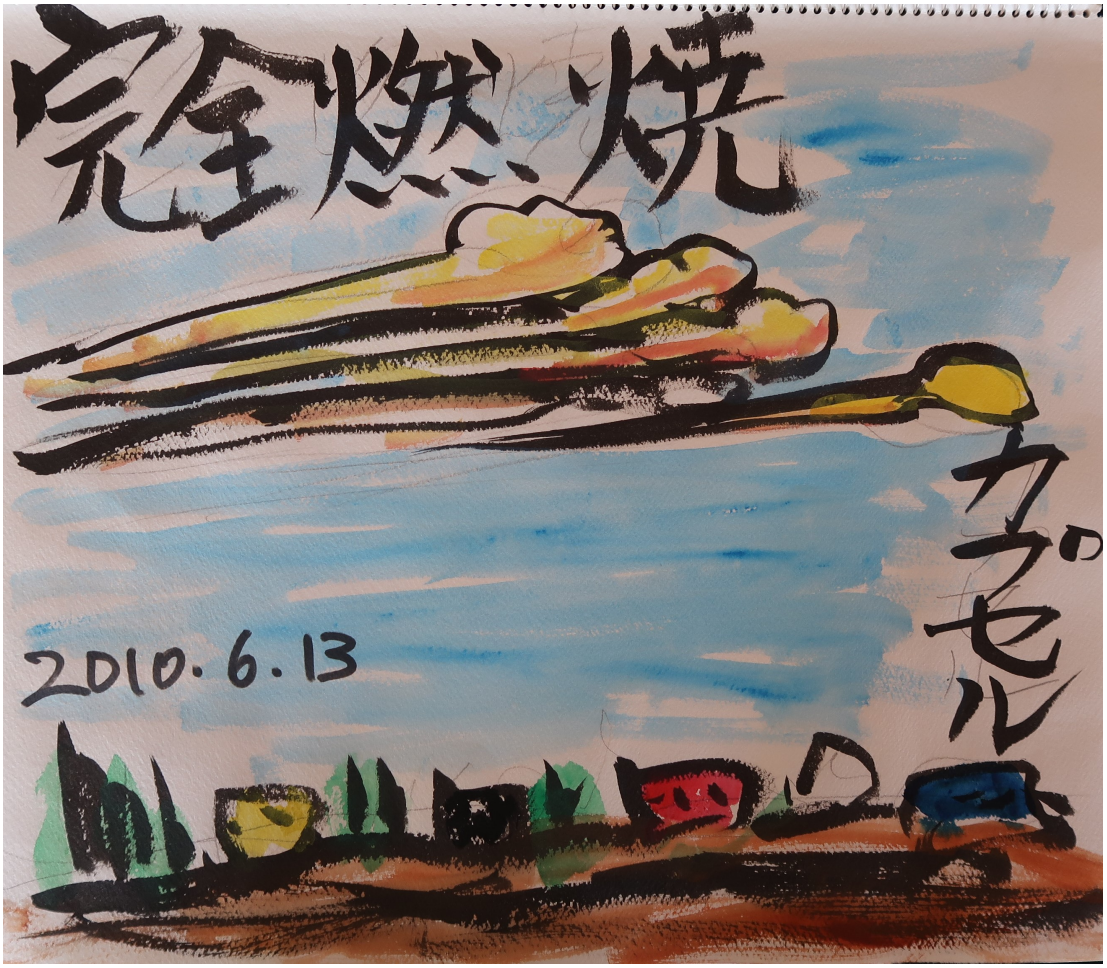
事実があって、それを私がどのように捉えるかによって、その事実に対して湧き上がってくる感情は変わってきます。同じ出来事であっても、見え方によっては怒りの感情が出てくる人もいれば、喜びの感情が出てくる人もいる。それは、その人がその出来事をどのように捉えているかによって変わってきます。それを、なぜ怒らないのか？なぜ、喜ばないの？と相手に求めても、なかなか自分の思う通りにはいかないですよね。人間関係を構築する上で、最も悩ましく難しさを感じる瞬間でもあります。しかし、事実は変わりませんが、捉え方や見方は変えられます。その結果、湧き上がってくる感情も変わってきます。生きていく上で、この捉え方や見え方を広げることは、とても大切なことだと思っています。

毎日仕事に忙殺され、朝になると「あ～ぁ、朝かぁ…」と思うより「よし！朝だ！」と捉えることで、色々な見え方が変わってくるでしょう。「チャンスはピンチの顔をしてやってくる」という言葉があるように、物事には色々な見え方がある（解釈できる）と問われたようなゴールデンウィークのエピソードでした。



発行責任者：安泉寺　住職　野呂大悟　　住所：〒496-0945愛西市三和町中ノ割173-1 電話：0567-28-0001

連載「ハヤブサ物語」18　野呂美道



◆みんな、これが僕の最期の姿だ。僕は大気圏に突入し、空気との摩擦熱で燃えながら閃光を曳いてオーストラリアのウーメラ砂漠の上空で完全燃焼した。◆でも、右端の火の玉を見てほしい。大切に地球に持ち帰ったカプセルは何千度という熱にも耐えられる金属球に守られて、砂漠の一角に着地した。カプセルには発信機が取り付けられ、スタッフが必死に捜索した結果、無事発見された。◆僕は自分の役割を完全に果たし終えて、満足しながら無に帰した。◆ここまでは僕の一生を辿った科学番組だったが、安泉寺の前住職は僕と地上のスタッフをとんでもない状況に例えて、読み変えてしまった。次回を乞うご期待！（続く）

発行責任者：安泉寺　住職　野呂大悟　　住所：〒496-0945愛西市三和町中ノ割173-1 電話：0567-28-0001

文化

2021.4.20 中日新聞 朝刊 人生のページ

昭和遠近 66

短歌にみる時代相

懐かしさ 国境超えて

イムジン河

島田修三

くりかへしくり返し聴くなつかしき「イムジン河」はわれの十代

喜多弘樹の歌集『さびしき蛞蝓』（二〇〇六年）の一首。名曲「イムジン河」が全国的に話題になるのは昭和四十三（一九六八）年頃だ。本来は昭和三十二（五七）年、北朝鮮の音楽家により作詞作曲された楽曲。それを知らずにアマチュア時代のザ・フォーク・クルセダーズが歌っていた。正確には、「イムジン河」の二番を作詞し、フォーク・クルセダーズに曲とともに伝えた作詞家の松山猛が最初は作者未詳の民謡だと誤解していたのだ。

この辺の経緯は松山の著書『少年Mのイムジン河』（二〇〇二年）に詳しい。

松山の通う京都の中学校は地元の朝鮮中高級学校と喧嘩が絶えず、松山が友人とサッカーの親睦試合を申し込みに中高級学校を訪れる。そのとき、校内に「イムジン河」の歌声が流れていた。その旋律に胸を打たれた松山が音楽友だちの朝鮮学校生から旋律と歌詞（一番）を教わり、二番の歌詞を創作、フォーク・クルセダーズに伝授した。井筒和幸の映画『パッチギ！』（〇五年）は喧嘩に明け暮れる日本人と在日朝鮮人の少年少女らの対立と友情の物語で、美しく豊かな「イムジン河」の旋律が背後に流れる。松山の著書がベースとなった映画。

「帰って来たヨッパライ」で躍り出た頃のザ・フォーク・クルセダーズ

大ヒットした「帰って来たヨッパライ」に続いてレコード化の予定だった「イムジン河」は、朝鮮総連の抗議により販売されなかった。フォーク・クルセダーズの歌う二番の歌詞が原曲と異なる点も問題になったようだ。南北国境近くを流れるイムジン河の流れに遠い南（韓国）の故郷を偲ぶ一番はほぼ同じだが、原曲の二番は凶作続きで貧しい南を早く豊かな北と統合すべきだとする露骨な政治的プロパガンダ。松山の歌詞は誰が祖国を南北に引き裂いたのかと問う。むろん朝鮮戦争である。

政治的な思惑が入りこんで厄介な曲だが、知る人ぞ知る曲として歌い継がれ、今でも私はふと美しい旋律をハミングしていたりする。同世代の喜多もそうなのだろう。北朝鮮にも韓国にも、「イムジン河」の旋律に国境を超えて、懐かしさを覚える人が大勢いるに違いない。

（しまだ・しゅうぞう＝歌人、愛知淑徳大学長）

◆島田氏が述べているように、私の青春時代とイムジン河は切っても切れない関係にある。この記事を読み、再び懐かしい時代にタイムスリップした。◆この年になって、イムジン河の深い意味を知り、追体験できるとは何と意義深いものかとしみじみ思う。青臭い生意気な人間が、糠（ぬか）漬けの中で、酸味と旨味を増すように感じる。◆私も早速「パッチギ」のDVDを手に入れて鑑賞した。朝鮮人学校と日本人学校の抗争に明け暮れた内容で、少し暴力的だったが、バックに流れるイムジン河のメロディーはあくまで澄み切っていて、映画の激しさを和らげ、水に流してくれる爽やかさがあった。◆私の心の脊髄には今も民族差別の痛みが残っている。教え子からも戦争からも引き継いだ痛みである。大切に感じていきたい。

発行責任者：安泉寺　住職　野呂大悟　　住所：〒496-0945愛西市三和町中ノ割173-1 電話：0567-28-0001

オリンピックはできるの？

野呂美道

大波小波

五輪と言論統制

東京オリンピック・パラリンピックについての言論統制が激しくなってきた。

たとえば開閉会式演出の内幕について報じた『週刊文春』（文芸春秋）に対して、組織委員会は、雑誌の販売中止と回収、「文春オンライン」記事の全面削除を要求。しかも同委員会が国際オリンピック委員会に行ったプレゼンテーション資料を同記事が掲載したことについて、著作権の侵害を主張してもいる。

あるいは、NHKは特設サイトでの聖火リレー・ライブにおいて、沿道から五輪反対の声が上がると無音状態にして中継を続けた。

また、ネットでは、池江璃花子選手の見事な復活に乗じて、五輪開催強行への反対を表明しにくい雰囲気が醸し出されている。「お前は池江選手に開催中止を言えるのか」と。

石原慎太郎が招致の声を上げ、安倍晋三が福島の原発に関して嘘をついてまで実現したかったのは、こういう事態なのだろう。莫大な税金と民間資本を注ぎ込んだ巨大イベントをぶち上げ、異論を排除する。根底にあるのは国民を一色に染め上げた全体主義的国家への欲望。安倍がコントロールしたかったのは、事故を起こした原発ではなく国民の感情だったのだ。

その手には乗るものか。

（レニ）

2021.4.20 中日夕刊

◆中日新聞夕刊のコラム「大波小波」は辛口で率直だ。私なりの意見を述べたい。◆近代オリンピックの祖クーベルタンは「勝つことではなく参加することである」と述べ、民族の友愛と平和を願った。◆しかし、オリンピックはその後様々なモノに利用され、膨大な尾ひれがついた。◆ベルリンオリンピックではヒトラーがドイツ民族の優位性を誇示する道具にした。モスクワ五輪ではソ連のアフガン侵攻に抗議し、多くの西側諸国がボイコットした。◆山下泰弘は4年後のロス五輪で悲願の金メダルを取り、今日に至る。◆アメリカの放映都合に配慮して8月に札幌でマラソンをやる。◆コロナにうち勝つはずの東京五輪が、コロナの感染真っただ中でも強行する。未来に禍根を残し、人類の負の遺産になると山口香は述べる。◆丁度かつての日本が多くの世論を無視し、太平洋戦争へと強引に進む姿と酷似している。冷静な軍人達はみな戦争は反対だった。アメリカに勝てるはずはないと考えた。◆今の状況ではコロナに勝てるはずはない。8年前安倍前総理は言った。「復興と五輪を両輪で加速する」と。そんなことできるはずもない。◆エベレスト登頂の鉄則は何か。少しでも不安材料があれば、登頂目前にしても引き返す勇気を持つこと。◆もしそうするなら、その人こそ英雄だと讃えられるべきである。原点回帰が問われる。

発行責任者：安泉寺　住職　野呂大悟　　住所：〒496-0945愛西市三和町中ノ割173-1 電話：0567-28-0001

連載「私の出会った神様たち①」

野呂美道

西村滋のプロフィール
1926-2016　名古屋市生まれ。6歳で母を失い、9歳で父にも死別。以後、孤児としての放浪生活が始まる。戦後、戦争孤児の補導員として働き、その頃のことを原点に〝平和と子供〟をテーマにした作品を書き続けた。多くの著書のうち「雨にも負けて、風にも負けて」（双葉社）で第2回日本ノンフィクション賞、「母恋い放浪記」（主婦の友社）で第7回山本有三記念・路傍の石文学賞を受賞。本文は同朋高等学校平成元年度・PTA総会・記念講演での録音を野呂が筆耕したものである。

第一章　わが生い立ち

◆こんにちは、西村でございます。人によってはあれは山田邦子のお父さんではないかという者もおります。（笑）まさしく西村滋でございます。◆今日は本当にご苦労様でございます。生徒さんもご苦労様です。よろしくお願いします。◆今ご紹介いただきましたように、僕は名古屋出身です。東区新出来町に生まれました。ごく普通の家庭に生まれまして、わりと裕福な家庭だったものですから、順調にいけば幸せになりまして、学校も高いところへ行かしてもらって、今頃はしがない作家ではなくて、文部大臣ぐらいになっていたんではないかなと思っているんですが、残念ながらそうはいきませんでした。◆古新尋常小学校というのがありまして、お若いお母さんなどご存じないと思いますが、今は明倫とか明和とかいう名に変わったそうです。

◆つまり、新出来町と古出来町というのがあるのですね。そして両方から通う子供が行く学校ですから、古新尋常小学校という珍しい名前の学校だったのです。◆小学校も僕は完卒できませんで、九才ですから、4年生で中退いたしまして、それ以来学校という所とはご縁がなくなっておりました。◆今日こうして高校などに伺いますと、非常に僕は郷愁のようなものを感じてしまいます。僕は学校に対するあこがれを強く持っています。いまだにそうなのです。◆昔は中学は義務教育ではなかったわけですからもちろん中学にも行けなかった。小学校を中退しているのですから、行けるはずはありません。高校にも行けなかったのです。今から思うと高校ぐらい行きたかったなあと思います。（続く）

発行責任者：安泉寺　住職　野呂大悟　　住所：〒496-0945愛西市三和町中ノ割173-1 電話：0567-28-0001

ある親子のやり取り、母「机買ってもらったら勉強する？」娘「未来の私次第！」◆次は中日新聞の投書欄より抄録、「座右の銘は『雲の向こうはいつも青空』。私は問題を抱えると暗い未来ばかりを想像していた。雲は悩み事、青空は明るい未来。未来は自分で切り開くものだから、それをどうせだめだと思ってしまう自分のままではもったいないと感じた。私は楽観的になれるようになった。青空に向かってはばたくぞ！」12才の小学生◆この二つの文から、私は子どもの対照的な考えを見た。机の子は今現在がそのまま未来に繋がっていくことを考えていない。なるようにしかならない、自分の努力を超えた運命に身を任せてしまう生き方だ。◆それに対して、青空の子は、未来を青空と楽観視する。私が最もいいと思った部分。「どうせだめだと思ってしまう自分のままではもったいないと思った。」のところ。もったいないがキーワード。◆私は無駄が嫌いだ。食品が冷蔵庫に溢れ、忘れ去られて捨てられることに罪悪感を感じる。断捨離というけれど、求めなければ捨てるものは無くなる。「要るものは買え、欲しいものは買うな」というのは金言だ◆さて、話を戻そう。青空と陽の光について親鸞聖人の表わされた正信念仏偈（正信偈）に次の句がある。

譬如日光覆雲霧・雲霧之下明無闇
（ひにょうにっこうふううんむ・うんむしげみょうむあん）

たとえば日光が雲や霧に覆われても、その下が明るくて闇にならないように、仏（みほとけ）の心はいつも澄み切っているのです。

◆未来を青空と楽観視した子は希望に満ちていて清々しい。一方、親鸞聖人は別の視点で青空を想像している。私たちを覆う煩悩の雲や霧は、晴れることはないと断言する。でも、太陽の光は煩悩の厚い雲を通してでもちゃんと私たちに届いているではないかと述べる。◆我らの曇った眼（まなこ）では真実の光は見えないかも知れないけれど、真実は私たちを常に照らしていると確信をもって語られた。◆だから運命に身をまかせるなどと受動的に生きないで、青空のもとで、失敗してもいいから精一杯自分のいのちを輝かせて能動的に生きなさいと、未来の青空が自分に語りかけている。◆そう考えた方が人生はもったいなくないような気がしてならない。

発行責任者：安泉寺　住職　野呂大悟　　住所：〒496-0945愛西市三和町中ノ割173-1 電話：0567-28-0001

◎家具を組み立てる

◆先日、隣家のテーブルが気に入ったので長久手のイケアまで妻と出かけた。それまでスウェーデン製のお値打ち家具のイメージしかなかった私の浅はかな考えを完全に粉砕した。◆その堅牢さ、重さ、デザインの素晴らしさなどに脱帽。一生使える家具と断定した。自分で持ち帰り組み立てることで価格を抑えるという合理的な考え方だ。◆それはいいのだが、在庫倉庫は高さが10メートル以上あり、もし地震がきたら大惨事。パーツは頑丈な段ボールにきっちり詰められているが、尋常な重さではない。一人では無理。◆やっとの思いで持ち帰り、組み立てようとしたが、さっぱり分からない。数十か国語で記載された言葉も何の役にも立たない。頼るのは一冊の組み立て図のみ。◆でも、実はこれが慣れてくると、何よりも分かりやすくなった。図をしっかり見ないとミスを犯す。ねじ一本、ナット一本も余りなし。◆インパクトドライバーと木槌があれば、他の道具は要らない。私は何度も頭をひねり、悪戦苦闘しながら、やっとの思いでテーブルを組み立てた。隣家の中学生が簡単に組み立てたと話に聞いていたので、ちょろいもんだと高を括っていた。◆それはとんでもない間違いだった。彼には、図形を見て何をすべきかすぐに分かる驚くべき才能がある。◆とにかく三点の家具を私は妻と非常な努力を払って完成した。そして感じた。「何て面白いんだ！」手軽なDIYができた！この充実感は予想外だった。そして国際的な家具メーカー・イケアの世界戦略を垣間見る気がした。

◎北欧イズム

◆話は発展するが、北欧はその豊かな森林資源を生かした魅力的な家具で有名だ。しかし、家具ばかりではない。スウェーデンの建築家の自宅を紹介する番組を見たが、どれも素晴らしい。①木材をふんだんに使っていること、②周りの自然と心地よく調和していること。③エコを追及していること④無駄のないセンスに

発行責任者：安泉寺　住職　野呂大悟　　住所：〒496-0945愛西市三和町中ノ割173-1 電話：0567-28-0001

満ち溢れていることなど、私の興味を引いた。◆その流れで家具もある。一枚板ではあるけれども、ムクではない。圧縮合板だ。メリットは絶対に反らない事、デメリットは重い事。でも家具は重い方が良い。◆このようにイケアの製品は頑丈ではありながら、スリムなセンスに満ち溢れていること。この二律背反を律するのは難しい。◆北欧の国、スウェーデンの堅実さを物語る製品が三つある。家具、車、カメラだ。◆車はボルボ。世界一番頑丈な車として愛好者が多い。私も一度クラシカルな中古車に乗ったことがある。座席は暖房装置があり、寒い時は重宝、但しかけすぎはお尻がかゆくなる。ヘッドライトにもワイパーがある。何故かというと、極寒の地を走る仕様の車だからだ。◆カメラにもスウェーデン製の名機がある。その名もハッセルブラッド。ボディーだけでも何十万円もする。ドイツのカールツァイス社製のレンズを付けたものは百万円を超える。◆堅牢無比が売りだ。スウェーデンは昔から優秀な鉄鉱石が採れた。それを製錬したのが有名なスウェーデン鋼。だから精密機械工業が起きた。◆ここまで来ると、私はスウェーデンという国民の堅実性、真面目さを礼賛しているようだ。ただ、いま一つ腑に落ちないことがある。新聞紙上で世界の百万人当たりの新型コロナ感染者数が、世界一多い国がスウェーデンだ。

◆どこかで聞いたのだが、国民全体が抗体を持つように敢えて感染者を感知しないという国策らしい。（私には納得できないが）

◎日本文化との融合

◆しかし、私は次に日本文化についてその良さを述べなければならない。日本には四季があり、季節に応じて衣食住を変化させながら我々は適応してきた。暑い時には打ち水をし、浴衣を着て風鈴を鳴らし、花火をして涼をとった。冬には炬燵を用意し、ちゃんちゃんこを纏い、雪だるまを作って寒さにうち勝った。◆その中で生まれた、侘び寂びの世界、世の儚さを暗示する衣食住の簡素な世界は日本独自のものだ。障子や襖、畳の文化は今や日本ではあまり見られなくなった。桂離宮に代表される、数寄屋造りの日本建築の素晴らしさ、不自由な中に遊ぶ粋な文化を日本人は好んだ。◆今や、安泉寺は楽な事ばかりを考え、ほとんどの部屋にテーブルを置き、椅子での生活を普通にしてしまった。しかし、畳を持つ日本間は残し、和風建築の良きところはそのままにしてある。◆和洋折衷だが、着物を着て袴をはき靴を履く時代だ。新しい流れは衣服にとどまらず、食や住にも取り入れられるに違いない。◆さらにこれからはＳＤＧｓ（持続可能な開発目標）に沿って生活を考えていかなければならない。私たちの子孫が生き残るべき未来に負の遺産を残さないためにも！

発行責任者：安泉寺　住職　野呂大悟　　住所：〒496-0945愛西市三和町中ノ割173-1 電話：0567-28-0001

形見の財布

野呂美道

聞 2021.3.21(日) 中日 朝刊

名古屋市民版10月28日付

内堀外堀

財布

薄茶色の二つ折りの財布が、台所のごみ箱に捨てられているのを見つけた。まだ使えそうなのに、もったいない。「昨年病気で亡くなった夫の形見だけど、もういらないの」。県内に住む女性(七〇)は記者を見ながら、半ば投げやりな笑みでつぶやいた。「泥棒に触られたし、気持ち悪いから」

この女性は無施錠の隙を突かれ自宅が空き巣に遭った。金庫のお金だけでなく、財布に入っていた四万円も盗まれた。「使いづらくて、取っておいたお金。こんなことなら、先に使えば良かった」。夫不在の独り暮らしには広すぎる一軒家に、冗談が寂しく響く。

県警の捜査幹部は言う。「泥棒は金品だけでなく、心を盗む犯罪だ」。女性は財布に込められた「心」を奪われた。「短い時間の外出だから、と言って家の鍵を掛けないなんてダメ。それを知ってほしい」と記者に訴えた。形見すら嫌悪するようになった自分のような人を、減らすために。

(清水裕介)

社会部 清水裕介(40)

◆以前、お世話になった記者さんが、右の記事を掲載した。私はそれについて少し考えてみたい。◆自分なら形見の財布だからその後も大切に使ったかもしれない。現に今使っている財布は数十年前に教え子が売り子になっていたデパートで、選んでもらったものだ。子羊の皮で柔らかく、深い緑は増々手垢で重厚な輝きを増し、何度も自分で修理しながら使っている。◆すぐ、お釈迦様の話に持って行くのが私の悪い癖だが、ある人がお釈迦様に聞いたそうだ。「屋根の雨漏りに困っています。うまく直す方法はないでしょうか？」お釈迦様はこう答えた。「屋根を取り払いなさい」と。身も蓋もない返答だ。けれども、これは「屋根という執着を離れよ」という呼びかけだ。屋根は私たちの煩悩だ。その元を断ちきれば、雨漏りに悩むこともない。お釈迦様の教えはいつもこのように私たちの意表を突く。◆また、こうも言う。旅人が川を渡るとき、たまたまそこにあった筏で無事渡り終えたとき、「この筏は大切なものだから、担いでいこう」と言って旅を続けた。これも「一度役に立ったものも、捨て去らなければならない」という執着を離れる逆の譬えとされている。（105号参照）◆断舎離が叫ばれて久しい。人は亡き人への思いを物に託して「形見」という形で残そうとする。命の次に大切なものかも知れないが、やがて形見も役割を終える時がくる。それは形見が**物から心へと昇華された**ことにほかならない。◆この奥さんは財布を捨てることで亡き夫と本当の意味で心を通わせることができた。筏を捨てて、次のステップに進むことができたのだ。◆記者さんの記事を私は別の解釈で述べた。奥さんは気づいていないかもしれないが、亡き夫は「そんなもの必要ないよ。」と優しく彼女に呼びかけていると思う。◆私の財布もいずれ捨てる時が来る。

発行責任者：安泉寺　住職　野呂大悟　　住所：〒496-0945愛西市三和町中ノ割173-1 電話：0567-28-0001

わたしは家を作るものを求めながら幾度も生まれ、輪廻の中を得ることもなく、さ迷ってきた。生存を繰り返すことは苦しみである。◆家を作るものよ、わたしはついに汝を見つけ出した。汝は再び家を作ることはないであろう。◆汝が作った垂木はすべて折れ、棟木も壊されている。◆わたしの心は意識を生ずるはたらき（行）をはなれ、渇愛を滅しつくしている。
（パーリ『法句経』より）

◎ブッダがさとりを開いたときの言葉

◆ブッダガヤーの菩提樹の下で静かに座禅を組み瞑想に入ったブッダは、悪魔の妨害を退けて、四十九日後の未明、ついに真理に到達します。◆人の苦悩が生じる原因をつきとめ、どのようにしたらこれまで自分を苦しめてきたものを滅ぼせるかを知ったのです。◆この詩は、そのときの心境をありのままに述べたものです。◆詩のなかで「家を作るもの」といっていますが、この「家」とは生まれ変わりながら輪廻し続ける人間を意味し、「作るもの」とは、人をつき動かしているもののことです。その正体を探し求めてずっとさ迷ってきたというわけです。◆ブッダは長い間、何度も生まれ変わり、輪廻転生をくりかえしても、さとりの智慧を得ることなく、苦しみ、さ迷いつづけました。◆しかし、ついに「作るもの」を見つけ出しました。それは迷いをもたらす妄執だったのです。◆苦しみの根源が妄執や煩悩であることがわかった。その正体がわかったので、もはや家の作り手がふたたび苦悩の家を作ることはない。煩悩という垂木はすべて折れ、煩悩によってつくられた無明という棟木も破壊されている。◆このような、心がどこまでも澄みわたって晴れ晴れとした瞬間の心情を述べているのです。◆この二つの詩は、『法句経（ダンマパダ）』だけでなく、同じく初期経典の『ウダーナヴァルガ』や『ジャータカ』にも収録されています。◆ブッダのさとりを得たときの心境がよく示されたものとして、今日まで広く伝承されており、とくに南方仏教の僧院では現在も毎日唱えられているのです。

発行責任者：安泉寺　住職　野呂大悟　　住所：〒496-0945愛西市三和町中ノ割173-1 電話：0567-28-0001

六月の行事予定

環境保全会活動　十二日（日）八時

三密を避け、屋外で植栽・除草・看板描きをします。

訃報

鷲尾吉弘さん　三和町　享年七十七才

お知らせ

◆「百折不撓」でも書きましたが、安泉寺のホームページが刷新されました。ホームの映像がドローンで撮影した動画で始まります。この寺報もＰＤＦ方式でアップされ、カラーで見ることができます。是非ご覧ください。

編集後記

◆健康診断をうけ、結果がきました。昨年度より良い結果！特に異常なしでした。身体あっての人生。感謝です！

◆Ｋさんからの絵手紙です。

今月の掲示板

がまんがまん
ここはがまんだ
どんなながが雨も
いつかやむ

◆雨もコロナもいつか必ず止む（収まる）時が来る。じっと我慢の日々が続きます。

発行責任者：安泉寺　住職　野呂大悟　　住所：〒496-0945愛西市三和町中ノ割173-1 電話：0567-28-0001